

## Successful mitral repair for central bridge double-orifice mitral valve via right minithoracotomy

JTCVS techniques (2024)

<https://doi.org/10.1016/j.xjtc.2024.03.020>

僧帽弁の先天異常のひとつである重複僧帽弁口を伴った僧帽弁閉鎖不全症に対して右小開胸下に僧帽弁形成術を施行した症例報告です。A2-P2 間に線維性の架橋構造を有し、その左右にほぼ等しい大きさの弁口が存在する状態でした。P3 に逸脱を認め、A2・A3・P2・P3 に粘液腫様変性を認めました。重複僧帽弁口を伴う複雑な病変であっても、僧帽弁形成手技は通常の変性性僧帽弁閉鎖不全症と同様のコンセプトで、P3 の余剰弁尖の切除と人工腱索による coaptation area と coaptation line の復元を行い（架橋構造は切離せず）、良好な逆流制御が得られました。